

平成25年度

農山漁村女性・シニア活動表彰

農山漁村男女共同参画優良活動表彰

受賞個人、団体・組織活動概要

❀❀ 農山漁村女性・シニア活動表彰 ❀❀

農林水産大臣賞

A. 女性地域社会参画部門



農家レストランで活き活きと！

菊池 ナヨ 岩手県遠野市

農村女性が主体となった地域づくり活動とコミュニティビジネスの実践

平成 10 年に農家レストラン「夢咲き茶屋」を開店。郷土食中心のメニューを提供し、地域の食文化を発信するとともに農村女性の雇用の場となっている。平成 24 年には 2 号店「結和」を開店させ、農村女性が主体のコミュニティビジネスとして順調な発展を遂げている。小中学校の児童・生徒を対象に郷土料理講習会を開催、昔の食文化や知恵を伝える「あやおり食暦」を中学校の生徒と共同で作成するなど食育と伝承活動に取り組んでいる。



地域の農業委員としても活躍

黒田 恵美 兵庫県たつの市

生涯現役！～常に新しいことに挑戦～

黒崎梅林組合の婦人部長としてリーダーシップを発揮し、観梅事業、梅料理、梅加工品等の開発を主導して「綾部山梅林」が有数の観光農園として発展することに貢献。また、兵庫県女性農漁業士の初代会長として女性の地位向上を訴え、町社会福祉協議会理事等を歴任。平成 20 年には市として初の女性農業委員となり、農業者年金加入推進などに積極的に取り組み、現在 2 期目の農業委員として活動している。

B. 女性起業・経営参画部門



伝えたい味がある～あばん亭～

あばん亭 福井県小浜市

あばん達の企業

地域の古民家を活用して平成 20 年に地元の食材を使った宅配弁当の店を開業。さらに平成 23 年には農家レストランを開業した。原材料は地元のコシヒカリ、野菜を基本とし、海産物も活用している。人材面では地域の余剰労働力として主婦等を採用して無理のない運営体制を構築。完全予約制にして人件費・材料費のロスを削減し、事業拡大に繋がっている。地元食材の消費拡大による地域活性化、雇用創出に貢献している。



株式会社ビストロくるるんの役員

株式会社ビストロくるるん 福岡県三潁郡大木町

大地の恵みと人々の笑顔に感謝して～「ビストロくるるん」が目指すもの～

平成 22 年道の駅オープンに伴うレストラン運営への応募をきっかけにスタート。地元産食材にこだわるとともに、親子対象の弁当づくり教室の開催など食と農の架け橋となっている。女性 3 人が共同でレストランを経営するとともに、地元や近隣市町から女性 13 名を雇用し、地域への貢献も高い。開業以来、多数のリピーターが訪れるなど、消費者に食と農の大切さを発信する地域の交流拠点となっている。

C. シニア起業・地域活性化部門



読み聞かせて、食文化を次世代へ

中村 佳子 香川県小豆島町

電話交換手から農村女性起業家へ～絵手紙で飾る私のはつらつ人生

婦人会会長や農協女性部長を長年務め、男女共同参画推進員としても啓発活動を行う。農協女性部長の時に直売市を中心となって立ち上げ、さらに町内の先進的な事例である女性起業組織「安田レディースあわじ会」を設立して味噌作りに取り組んでいる。これまでに習得した経験や技術を地域活動に活かして、活動の効果をあげている。平成 25 年度「香川県むらの技能伝承士」に登録。



笑顔で、ふれあいを大切に！

有限会社四季（ふれあいタイム四季） 長崎県雲仙市

農産物に愛情を！！

吾妻農産加工組合の女性部長を引退後、仲間呼びかけて有限会社を発足させる。自己資金、自己責任で加工・直売所運営を行い、構成員の年間賃金を他産業並に算出。直売所の中に総菜・菓子部門を併設して加工品生産・販売も行う。直売所は市内の農漁家であればどこからでも受け入れて地域活性化に寄与するとともに、地元農漁家の副収入確保に寄与。地域の憩いの場としても定着している。

❁❁ 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 ❁❁

農林水産大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



両手いっぱいの中玉トマトで笑顔満載

寺田 真由美 岐阜県高山市

平成 11 年、結婚を機に就農。平成 18 年に夫婦で認定農業者となる。農家の後継者でない若者の研修受入により、本気で農業をやりたい人と一緒に新しい農業スタイルを作りたいと、平成 22 年に「株式会社 寺田農園」を設立、代表取締役となる。同年、加工所を建設。自社生産のトマトをジュースやピューレ、ドライトマト等に加工し、ネーミング・パッケージにも配慮して販売するなど、地域内でも先駆的に 6 次産業化に取り組むとともに、女性の感性を活かした「自分らしい新しい農業スタイル」を実践している。

地域参画部門



加工品が並ぶ店舗にて

三宅 静恵 福岡県筑紫野市

平成 8 年、両親の経営する三宅牧場に転職し、出産を機に退職。平成 14 年に加工所「まきば」を立ち上げ、三宅牧場のもち米を使って餅加工を始める。平成 18 年に直営店を併設した加工所をオープン。平成 19 年に「合同会社三宅牧場まきば」として法人化。加工所では三宅牧場の米などを使った餅、はかた地どりおにぎり、ポン菓子等を製造し、直営店やネットショップ、JA 直売所、地元量販店等で販売。また、子育て世代の女性を積極的に雇用し、就業時間の工夫等により従業員が働きやすい職場環境を整えている。

組織における女性登用部門



大崎市一日女性農業委員会の様子

大崎市農業委員会 宮城県大崎市

(農業委員会)

大崎市農業委員 50 名中、女性委員が 6 名で女性の登用率は 12%。毎年管内 9 選挙区から 2 人ずつ、「一日女性農業委員」に任命する「一日女性農業委員会」を年 2 回開催し、女性の市農業施策から市政へと視野を広げるきっかけとなっている。家族経営協定の促進についても農業委員会をあげて協定締結に取り組んでいる。また、女性農業者ネットワークの構築を進め、親身な相談活動を行う姿勢を共有している。女性農業委員が編集委員の一員となり、「大崎市農業委員会だより」を発行している。平成 26 年 7 月の農業委員任期満了に向けて、市長・市議会議長に対し選任委員への女性登用について引き続き、積極的に働きかけを行う予定にしている。



女性の農業委員登用の要請活動

栃木県農村女性会議 栃木県

(女性組織)

県域の各農村女性団体と各地区農村女性会議で構成され、18 年にわたり活動を行ってきた。県が策定した「とちぎの農村女性ビジョン」これに続く「とちぎ農業・農村男女共同参画ビジョン」の推進母体として栃木県の女性農業者の育成や男女共同参画の着実な推進に貢献してきた。特に女性の社会参画の促進については、同組織が全県下で登用活動を展開し、第 21 回農業委員統一選挙において、県内全市町の農業委員会に女性の農業委員を誕生させ、全国一位の実績を納めた。併せて平成 23 年度に県内全 JA に女性理事を誕生させた。県各市町農業委員 675 名の内、77 名が女性 (11.4%)、県内各理事 311 名の内、22 名が女性 (7.1%)。

❁❁ 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 ❁❁

農林水産副大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



ベジフルアレンジの体験指導

川村 美紀 青森県青森市

平成14年に結婚を機に就農。家族で観光りんご園を経営しながら、新規部門として夫婦で花き栽培を開始。就農2年目には直売活動をスタートさせ、その後、スーパーのインショップでの販売やレストランへの食材供給、イベント出展と販路を拡大させている。また、果物や野菜の加工にも取り組み、商品数を増やすとともに、平成25年に観光りんご園での収穫体験を発展させた「体験カフェ」を開設。夫や義父母と子育てや家事を協力し合いながら販路拡大等に取り組んできた結果、販売収入も増加している。さらに、研修生や新規就農者の育成にも貢献している。



紅果園りんご畑で夫の豪さんと

高野 寛子 岩手県奥州市

農業を職業にしたいとの思いから岩手県立農業大学校に進学し、平成13年に就農。その翌年に結婚し、嫁ぎ先の大規模りんご園で仕事と子育てを両立してきた。平成23年に「アグリフロンティアスクール」を受講し、自分自身も経営者として取り組もうと決意。平成24年、夫とともに認定農業者となり、また、岩手県青年農業士に認定される。農業高校の生徒などの農業体験の受入、農業大学校での講演などの活動も行い、さらにJA江刺りんごアップルレディースに参加してりんごの販売促進活動を行っている。

地域参画部門



美味しいお茶になあれ!

熊谷 美沙子 長野県天龍村

林業の先行きが不安となり、平成12年に「山の宿 加満屋」(林家民宿)を開業。平成16年、農村生活マイスターに認定。同年、「南信州グリーンツーリズムネットワーク この指とまれつながり逢いの会」を発足し、副代表に就任。また、南信州茶のブランド化と、手揉み技術の保存・伝承、品質向上を目的に「南信州茶手揉み保存会」を立ち上げ、小学校での茶摘み・手揉み体験や手揉み茶の実演・販売等を行っている。さらに、単身で学童クラブを立ち上げ、農作業や校外学習を取り入れた活動も行っている。



女性漁業者の模範になれるよう努力!

右田 広美 鹿児島県鹿児島市

平成5年頃から父の漁を手伝う。資材の調達を工夫して経費の削減に努めたり、価格の安い時期に魚の開きを作り漁業収入を補完した。小型船舶操縦士の免許を取得したことを機に、遊漁船業や工事作業の資格も取得し、漁協の正組合員となった。父が亡くなったあとは、父のヒラメ網を使って漁獲をあげるなど実績をつみ、手助けがあれば一人でもやっていけるとの自信につながった。さらには女性にはできないといわれる監視船業務にも同行している。

組織における女性登用部門



とちぎ女性農業委員の会の研修での挨拶

相場 カツ子 栃木県宇都宮市

(農業委員会、女性組織)

平成14年から現在まで宇都宮市農業委員を務め、4期目となる。当初、議会推薦の選任委員として1期、2期目以降は公選委員として就任。また、とちぎ女性農業委員の会(栃木県女性農業委員組織)の会長を務めるなど女性の社会参画を推進している。毎月定期的に女性農業委員独自の会合を持つなど、女性農業委員の中心的な役割を担っている。特に毎年、農業版の婚活である「ろまんちっくツアー」を先導する役割を担い、地域の農業後継者育成に貢献している。



子ども倶楽部活動への参加

南駿農業協同組合 静岡県沼津市

(農業協同組合)

JA 運営における女性参画の目標である「①正組合員における女性の割合 25% 以上」「②総代における女性の割合を 10% 以上」「③女性理事を 2 名以上」をいずれも達成している。当 JA では各地区に運営委員会を設置し、地区の組合員との密接な連絡調整をはかり、組合に対する理解・協力を高めることに貢献している。この運営委員会活動に女性の意見を反映させるため、平成 20 年 2 月、運営委員に女性枠を設けた。女性理事は通常業務に加え、業務部門ごとに設定された役割を担っている。

農林水産大臣政務官賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



こだわりの原木しいたけ栽培

貫井 香織 埼玉県入間市

採用コンサルティング会社、P R 会社を経て、平成 20 年に父が経営する(有)貫井園に就農、24 年に取締役に就任。貫井園として、世界へと販路を広げ、経営拡大を実現していくため、視点を変えて加工販売と海外輸出を含めた販路拡大に取り組む。商品開発は、ターゲット、販路、商品イメージを提案し、これを具体化できる企業と協同で行い、これまでに自家製しいたけパウダーやしいたけココア、しいたけミルクジャム等を開発。また、スーパーやレストラン等への販路を拡大するとともに、自社生産の茶をパリの食料品店で販売開始。



さがほのかいちごチップス
よろしく！

香月 涼子 佐賀県神埼市

平成 12 年、夫とともに就農。就農にあたり、義父から経営を移譲され、イチゴ部門を涼子氏夫婦、経理全般を涼子氏が受け持つ。平成 22 年、夫婦で認定農業者となる。いちご部会千代田支部の若手 9 戸で「いちご会」を作り、毎月自主勉強会を開催。また、生産した農産物を無駄にしたいくないという思いからイチゴの加工に取り組み、「さがほのかいちごチップス」を商品化したほか、イチゴソース等の開発にも取り組む。フレッシュミズの地区代表及び県の代表を歴任。

地域参画部門



農産加工部門を担当しています

刈米 眞弓 千葉県市原市

平成 6 年実家の農業を手伝い、平成 10 年観光みかん園に嫁ぐ。義母と一緒に農産物加工を担い、若手女性の視点をプラスした加工品の開発、販売に取り組む。加工品のアイテム数は増え、現在は 50 種類に及ぶ。効率よく健康的に働くための加工機械の導入などについて提案、実践。「次世代ヒロインセミナー」に参加し、研修終了後も若手女性の組織化に向けて牽引役となり、平成 22 年「いーやんばい」を発足し、初代会長となる。組織化を通じて若手女性農業者の交流や技術向上が進む。



新鮮野菜を使った料理の様子

大坪 順子 富山県高岡市

平成 18 年、結婚とともに就農。転作の水田 20a で野菜作りを開始、少量多品目を目指す。西洋野菜がイタリアンレストランのシェフに購入されるようになり、さらにレストラン、ワインバー、パン屋等に販路を拡大する。大きな転機は、平成 23 年に農家カフェ「Jun Blend Kitchen」をオープンした事。カフェでは原材料にこだわった料理を提供しており、人気メニューの提供で好評を得ている。JA 高岡の「フレッシュミセス」部長を務めるとともに 6 次産業化を目指す農業者を対象とした研修講師としても活躍。地域の若手農業者で「J B 会」を発足させ、他産業に従事している若者も加わり幅広い交流をしている。

組織における女性登用部門



農業者年金 PR でラジオに生出演

瑞穂市農業委員会 岐阜県瑞穂市

(農業委員会)

同農業委員会では、平成 23, 24 年の女性農業委員の活動を「農業者年金の加入促進活動」と定め、現職の女性農業委員の活動を促進している。さらに平成 25 年 4 月に農業委員の改選期を控え、市議会全員協議会の場において女性農業委員の登用について理解を求めた事により、7 名の選任候補者の内 4 名の女性全員が選任委員となった。同農業委員会で、現職の農業委員の中では最も長い任期となっているのが女性農業委員（5 期目 12 年目）。



平成 25 年度広島県女性農業委員の会総会・研修会（前列右から 4 番目道下会長）

道下 和子 広島県庄原市

(農業委員会)

庄原市農業委員の代表として、女性農業委員の活動の幅を広げたほかに、特に女性委員の登用に積極的に取り組み、平成 23 年度の改選期には会長とともに女性委員の登用に努力した。自身も公選の候補として取り組み、その結果女性農業委員が 7 名となり、大きな成果を得た。また、広島県女性農業委員の会の会長や、全国女性農業委員ネットワーク理事などの職も務める。

❀❀ 農山漁村女性・シニア活動表彰 ❀❀

農林水産省経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



地粉まんじゅうはいかが？
(中央が樺澤氏)

樺澤 壽美子 群馬県前橋市

地域活動を通じて学×楽 4 2 年～地域の仲間とともに次世代につなぐ～

昭和 45 年に農業後継者として就農。結婚後は夫とともに酪農経営を営み、経営改善や牛群改良に努め、経営の付加価値化に取り組んできた。長男の就農を機に協定を締結し、地域を代表するパートナーシップを実践。地域リーダーとしても活躍し、平成 15 年に県の農村生活アドバイザーに認定、「前橋広域農村女性会議」の設立に尽力、平成 23 年から 24 年まで同会会長に就任し、6 つの女性組織をまとめている。高校生や消費者を対象に地域の食文化の伝承活動にも取り組んでいる。



地域の人たちと伝統行事を伝えています（右が新藤氏）

新藤 みち子 埼玉県さいたま市

農業にいかされて

昭和 50 年代から農家女性が抱える課題に問題意識を持ち、農業経営への女性の位置づけを明確にした。地域の女性農業者と共に「浦和婦人農業青年会議所」を設立、地域、行政課題の改善に向けて取り組んでいる。農業経営においても体験型市民農園・加工体験等の新たな収益部門を立ち上げるとともに、市農業委員、埼玉県農業研究団体連合会幹事（元会長）として農村の男女共同参画の実現に向けた郷土料理教室や農業体験塾などを通じて、地域住民の交流の場の提供に取り組んでいる。



子供たちに郷土料理を伝承

西部 知香 愛媛県今治市

みんなを元気にしたい～島のお母さんの願い～

認定農業者として柑橘と花の経営に取り組む。生活改善グループ活動を原点として、「しまなみグリーン・ツーリズム活動」へ参画、同推進協議会会長に就任して、修学旅行の受入を開始して地域の振興に貢献。また、道の駅内に開設した農家レストラン、農家民宿の営業活動は地域の情報発信や地域おこしに貢献。平成 20 年県の農業指導士に認定され、後継者の育成やグリーンツーリズムに指導的役割を果たしている。

B. 女性起業・経営参画部門



「花袋・天王」で料理の説明をする重子氏（右）

加藤 重子 宮城県加美町

元気印は仲間づくりから～薬菜のパワーをいただいて～

平成6年農産物直売所「やくらい土産センター」開設にあたっては中心的役割を果たし、平成5年から14年までやくらい土産センターさんちゃん会理事・会長を歴任し、法人化の土台を作り、現在は農事組合法人代表理事組合長を努めている。事業運営にあたっては200名を超える組合員をまとめあげている。平成13年から農家民宿「花袋・天王」を開業。県指導農業士をはじめとする各種役職を務め、食育、地域づくり、人材育成にも取り組んでいる。



朝の加工所にて

渋谷 輝子 埼玉県越谷市

越谷農産物を加工品で伝えます～自園野菜等を活用した加工品の多品目展開

JA女性部部長として農産加工研修等を実施して加工施設の導入を検討後、個人で加工施設を設置して加工・販売を開始。「ふるさとの味伝承士」として地元農産物を活用した加工品を提供、市の広報誌にレシピを提供するなどの活動も行う。親子3代で加工に取り組み今後も経営展開が期待できる。農業研修生も多く受け入れ、就農促進にも貢献している。



(有)さくらじま旬彩館社員一同

有限会社さくらじま旬彩館 鹿児島県鹿児島市

活火山の島からのチャレンジ!!～桜島を丸ごと活かす～

昭和55年桜島の降灰により市場に出荷できない農産物を活用した加工品づくりに取り組み、加工活動をスタート。さらに地域の農産物を使ったレストラン経営を開始し、平成16年に法人化。桜島の農産物にこだわった加工品の製造・販売、若い女性を積極的に雇用して世代交代がスムーズに進んでおり、地域農業の維持、食文化の伝承に取り組んでいる。

C. シニア起業・地域活性化部門



ひょうたん完成で喜ぶ参加者

ひょうたん倶楽部 青森県黒石市

「飾りひょうたん」で組織活動パワーアップ

黒石市生活改善グループ連絡協議会の事業として「飾りひょうたん」という工芸品の制作にグループで取り組み、趣味として制作していた技術を芸術的にレベルアップさせた。研修会に津軽塗りの講師を招いて専門的な技法を身につけるなど研鑽を積む。平成21年に「ひょうたん倶楽部」を結成して本格的に起業活動を始め、地域の高齢者に良い刺激を与え、女性起業化の手本ともなっている。



生産組合員の皆さん

特産氷見稲積梅生産組合 富山県氷見市

古里を元気に、稲積梅を陸のがんどぶりに!

梅生産者の高齢化の進展等により生産が減退し、生産継続が危惧されていた梅「稲積梅」の生産の持続性を高めるために、地区の有志で設立し、県内最大の梅産地に育成。組合員17名中、11名がエコファーマー。稲積梅を植栽して「梅ロード」を築き景観向上にも取り組む。平成22年からは「梅まつり」を開催して県内外に広くPRしている。県立高校や県内企業とも連携を進める。



岡山みまさかの“おふくろの味”を届けます

勝田ひまわり会 岡山県美作市

地域のお宝（素材）を発掘し、生活改善グループから起業グループへステップアップ
37年にわたり地域資源を活用したグループ活動を継続し、中山間地における高齢女性の雇用の場を創出している。平成20年には会員出資で加工施設を整備し、巻き寿司、おこわ、鯖寿司、佃煮など、地域産品を活かした地産地消を展開している。市内の道の駅や大阪府箕面市の直売所などへほぼ毎日出荷し、販売実績をあげている。この加工活動により農家の生産意欲向上と農業振興の一翼を担っている。

水産庁長官賞

(A. 女性地域社会参画部門)



小学生を対象とした料理体験教室では講師も務める

平野 世紀子 石川県金沢市

石川県漁協女性部金沢港支部の取り組み

漁協女性部の設立当時のメンバーで魚食普及活動に取り組んできた。魚食活動では水産業の現状や魚食の重要性を、浜のかあちゃんならではの視点でわかりやすく伝えている。地区農林漁業女性連絡会のメンバーとして「海の子交流会」運営の中心的役割を担い、伝統や食文化の伝承に努めた。漁協女性の副部長、石川県海面利用協議会委員を務めるなどリーダーシップを発揮している。

優良賞

全国漁業協同組合連合会長賞

(B. 女性起業・経営参画部門)



私たちの活動で姫島をもっと元気に！

漁村女性起業化グループ「かなんど工房」 大分県姫島村

姫島名物 さかな味噌―「かなんど工房」の取り組み―

姫島の郷土料理をアレンジして、安価なため投棄されることもあったカナガラシを使った「姫島名物さかな味噌」を開発。加工品コンクールで優秀賞を受賞するなど定着している。平成24年には他の加工品を含めると1,000万円超の総売り上げとなった。「カナガラシ」を有効利用することで漁獲量の5割以上をかなんど工房が買い取っている。新商品の開発にも積極的に取り組み、農村の加工グループとの連携も行っている。

全国農業協同組合中央会長賞

(C. シニア起業・地域活性化部門)



ピーマン出荷始め！決起集会

岡山市農業協同組合建部ピーマン部会 岡山県岡山市

第二の人生は地域のために

地域の退職者11人で結成してピーマン栽培に取り組み、生産者数及び栽培面積を拡大。積極的な新技術の導入や地区対抗での生産振興など、企業の経営手法を効果的に部会運営に取り入れ、産地の振興が図られている。定年退職者の就労の場の提供や女性の社会参画推進に貢献。出荷体制整備や情報発信などにより、地元産としてブランド化している。平成24年度には部会会員全員でGAPを導入。